

## その後の川越城

江戸時代、藩政の中心としての役割を担った川越城も、明治時代になり、しだいに取り壊しが始まりました。

一般的に各地の城郭は、明治六年（一八七三）の廃城令以降、取り壊しが始まったとされています。しかし、川越藩はこれに先立つ明治二年（一八六九）、城の破損が進み、修復に経費がかかるため、差し障りのない所から城内の建物を取り壊したい旨の届け出を国にしています。川越城の取り壊しは、予想より早く進んだようです。

城の取り壊しにより、堀は埋め立てられて水田や畑になり、城の敷地の一部は学校や官公庁となりました。

例えば、嘉永元年（二八四八）に松平齊典によって作られた本丸御殿は、明治五年（一八七二）に入間県庁、その後入間郡公会所、大正七年（一九一八）には煙草専売局淀橋支局川越分工場とめまぐるしく姿を変えています。昭和八年、川越地方武道修練会の初雁武徳殿となり、戦後は市立第二中学校（現在の初雁中学校）の屋内運動場になっています。



星野家住宅として使用されていたころの家老詰所

また、本丸御殿と共に現存する家老詰所は、明治六年に福岡村（現在のふじみ野市）の福田屋の分家である星野家に払い下げられました。その後、昭和六十二年まで母屋として使われていました。近隣の市町村には、家老詰所だけではなく川越城内にあった城門などの建物が払い下げられ、点在しています。

また、本丸御殿と共に現存する家老詰所は、明治六年に福岡村（現在のふじみ野市）の福田屋の分家である星野家に払い下げられました。その後、昭和六十二年まで母屋として使われていました。近隣の市町村には、家老詰所だけではなく川越城内にあった城門などの建物が払い下げられ、点在しています。

## 世界の国から、こんにちは！



### モンゴル／エンフタイワン・ズラゲレルさん

ウランバートルの出身です。高校1年生の時、初めて日本に来てホームステイをしました。その時から、日本の大学に行きたいとあこがれ、現在は市内の大学に通っています。モンゴルは、小学校5年・中学校4年・高校2年の教育システムで、日本と違います。そのため、日本の大学に入るため、1年間モンゴルの大学で勉強して、来日しました。

日本の大学で学んだことを生かし、将来はモンゴルで、子どもたちのための活動をしていきたいと考えています。

**\*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは14ページ・20ページ、相談は23ページをご覧ください。**

国際交流課・TEL224-5506

## どんぐり

編集後記

ことし1月25日発行の広報川越の編集後記で、「新しい年が始まり」と書き出して、あっという間に年の瀬を迎えました。この広報川越・3ページで、ことしの出来事を紹介しています。その中でも、いちばんの出来事は、3月の天皇、皇后両陛下とスウェーデン国王、王妃両陛下のご訪問ではないでしょうか。当日、一番街で曳っかわせをご覧になる様子を撮影するため、マスコミ関係者に混じって、緊張と興奮で震える指でシャッターを切ったことをつい先日のことのように思い出します。私事では30歳になり、新しい家族が増えたことが、いちばんの出来事です▶年末年始は、大みそかから元日に年をまたいで取材を行い、慌ただしく新しい年を迎えます。来年も市民の皆さんにとって、よい年でありますように……。 (TO)